

ひかりのこ

4月園便り

聖ミカエル幼稚園

2013年4月9日発行

月主題：うれしい出会い

まだまだ雪が残っている園庭ですが、新年度がスタートしました。年中さん、年長さん、4年保育で大きな年少さんになったみなさん、ご進級おめでとうございます。3月の修了式、年長さんがいなくなった礼拝堂で私が「もうすぐね、新しい年少さんがたくさん入ってくるよ。最初は『エーン、オカアサーン』って泣くかもしれないけれど、みんなお世話してくれますか？」と聞くと、「抱っこしてあげる！」「よしよししてあげる！」と頼もしい声がたくさん返ってきて、とてもうれしかったです。新しい担任の先生のもとで、きっとすてきなすてきなお兄さん、お姉さんになってくれることでしょう。

新入園のご家族の皆さん、ご入園おめでとうございます。数多い幼稚園の中で、この小さな幼稚園を選んでいただき感謝申し上げます。小さな幼稚園ですが、年中さん、年長さんをご覧になってわかるとおり、ミカエルっこはとてもたくましく優しく育ちます。また、ミカエルの保護者の皆様は、笑顔が素敵で、子どもたちのために力を合わせてくださる方ばかりです。そして忘れてはならないのが、神様の存在です。私たちの幼稚園はキリスト教保育を基盤としています。子どもたちは「神様に守られている。」ことを心の支えとして生活します。私たち保育者も同じです。だからみんな朗らかで優しいのかもしれない。このように聖ミカエル幼稚園は、神様の「愛」を支えとして、保育者、保護者、教会の方々みんなで子どもたちを見守り、大切に育てていく幼稚園です。どうぞ、この一年、子どもたちも大人たちも新しい出会いの中で、みんなが毎日楽しく、わくわくしながらたくさんのお話を吸収して、生活できますように。心からお祈りしております。

園長 渡部 良子

キリスト教保育

未知の世界に向かって、故郷のスペインを去ったクリストファー・コロンブス。しかし、現実には厳しい海風と波、見えるものは果て知らず開かれた海と空だけでした。仕事とは言え、今まで誰も行ったことのない未知の世界に向けて黙って航海を続けることはベテランの船員たちにもとても苦しいことでした。しかも、スペインを出る時持って来た食料とお水等もそろそろ底を見せつつあったのです。今すぐ帰っても、故郷のスペインにたどりつくまで持てるかどうかとも知らないほどでした。船員たちは、赤く充血した目でコロンブスを狙って見ていました。それは今すぐにスペインに帰港しようという暗黙の脅迫でした。どうにもならないこの厳しい状況の中で、コロンブスはどうしたことでしょう。彼は何時もと変わらない平穏な顔で、聖書を読んでいました。そして、恐れと絶望に包まれている船員たちに向かってこう言ったそうです。“私はコンパスやこの船の性能を頼りにしてこの航海に出たわけではない。私を動かす動力は夢であり、それを持ち続けられる動力は神様に対する信頼から来る。私は今聖書を読みながら新しい動力を充電しているのだ。諸君も新しい動力を得られるよう聖書を読め。”その後いろいろな試練は続きましたが、彼の航海の結果はどうなったでしょう。ご存知のように、新大陸の発見でした。もしコロンブスが、絶望的な状況の中で、周りの多数の意見に飲み込まれスペインに戻ってしまったなら、新大陸の発見は無かったことでしょう。夢見る人、しかも、神様からその夢を持ち続けられる動力を得る人によって素晴らしいことが起こります。ミカエル幼稚園での新しい一年が始まりました。未知の世界に向かっての航海のようなものかもしれません。夢を見ましょう。そして、神様からその夢を持ち続けられる動力を得られるようにと祈っていきましょう。

チャブレン 司祭 ジョシュア 李 香男